インジュアリー　ライフ

空の歯車

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

インジュアリー　ライフ

【Ｎコード】

Ｎ９４２６Ｙ

【作者名】

空の歯車

【あらすじ】

中学３年の受験期に右目に一生の傷を負わされた少年、坂上（さかがみ）　懸麻（けんま）傷により勉強に対する意欲を無くした懸麻が行く事になった高校は体や心に傷を負った者だけが行ける高校だった。懸麻とその仲間たちがくり広げる恋愛コメディー！

エピローグ

「大丈夫ですか！？」

突如聞こえた人の声。はっと目が覚めると俺は道端で倒れていた。周りにはギャラリーがざわざわと集まっていた。え？何故に俺は倒れていたんだ？ふと、右目に違和感を感じた。開けようとすると痛みが走った。手で触ってみると血がついていた。

ふむ、なるほど×2。トマトソースで血が出ているみたいに見せる。つまり、ドッキリか。どうやら俺はテレビ番組のドッキリ者に選ばれたみたいだ。やったよ、母さん。俺この年でテレビに出れたよ。正直あまり嬉しくない。そんなことより、さっきから右目の痛みが治まらない。あれ…？何だかフラフラしてきた…。バタッ。俺はそこで気を失った。目が覚めると俺は病院で寝ていた。

右目には包帯が巻かれていた。包帯を取り、鏡を見ると右目には斜めの深い傷を負っていた。

その瞬間、あの時に起きた出来事を思い出した。「うわあああああ！」力いっぱい叫んでしまった。恐怖で体が震え始めた。もう…思い出したくない。

後で医師の話を聞くと、もう右目は開かないそうだ。傷も一生残るってさ。

よりによってこの受験期に…。そう思った時、ケータイから電話がかかってきた。母さんからだった。

「あんた…大丈夫？」少し心配そうな親の声が聞こえた。

「ああ…大丈夫だ。」安心させるためにそう答えた。

「その様子じゃ勉強に力が入らないだろう？受験はもういいよ。」

「何言ってんだ！母さん！！就職させる気か！？」

「いいや、高校には行かせるさ。試験を受けなくても今のアンタなら入る事が出来るのさ。」俺は母親の言うことがいまいち理解出来なかった。　しかし後々気づく事になるのだ。そう――――――俺が

行く高校で。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9426y/

インジュアリー　ライフ

2011年11月28日02時56分発行